

The image features a white background with large yellow triangles in the top-right and bottom-left corners. A horizontal brown bar is positioned in the center, containing the text "周知活動".

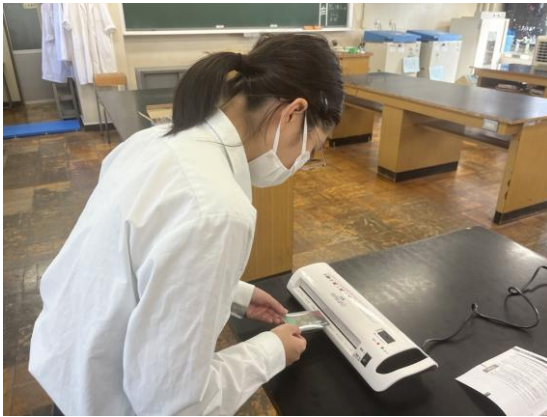
周知活動

周知活動に向けた開発

① 栞作成

準絶滅危惧のキクタニギクを多くの人に、より身近に感じてもらうため、広める方法を考え、栞の作成を行った。栞では、台紙にキクタニギクの押し葉・押し花を乗せ「重陽の節句」をイメージした。また、キクタニギクの香りに着目し、キクタニギクの香りを含ませた紐を作成に使用した(第1.2図)。

作成した栞は、様々なイベントで配布。また、栞作成のワークショップを行い、多くの人にキクタニギクの魅力を広めることができた。



第1図
栞作成の様子



第2図
作成した栞

② ネイル作成

花卉をネイルとして利活用することで、農業生産物の加工品として価値を高めることができると考え、検討を始めた。

京都市東山区にあるギャラリー竹田千藏商店を経営され、ネイルの販売が行われている竹田裕美子様に紹介したところ、「準絶滅危惧の保全だけでなく、SDGsの達成にも貢献することができる素晴らしいアイデア。」と言って頂き、商品開発にご協力いただいた(第3図)。

今後、ネイルの販売も行い、キクタニギクの知名度や利用価値を高めていきたい。



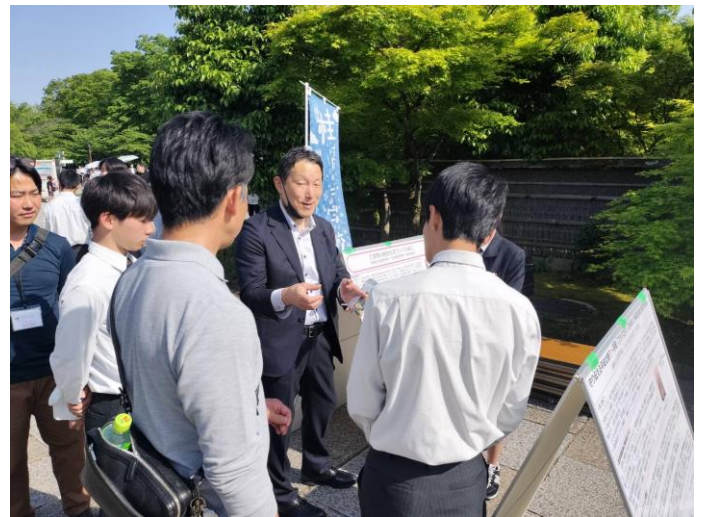
第3図 商品開発に向けて会議を行っている様子

周知活動ーイベント参加

イベント参加① 梅小路公園グリーンフェア2025年春

2025年5月3日、梅小路公園春のグリーンフェアに参加し、私たちの研究活動をまとめたポスター発表を行い、多くの人に私たちの活動や、準絶滅危惧であるキクタニギクの存在を周知することができた(第1図)。

また、キクタニギクの押し花を使用した葉の配布を行った。



第1図 ポスター発表を行っている様子

イベント参加② 京都円山マルシェ

2025年10月25日、円山公園にてキクタニギクを使用したネイルを販売した(第2図)。日本の方だけでなく、外国の方も多く、国を超えて多くの人々にキクタニギクを知っていただくことができた。公益財団法人京都市都市緑化協会様が展示していたキクタニギクも見せていただいた(第3図)。



第2図
販売会の様子



第3図
京都市都市緑化協会様のキクタニギク

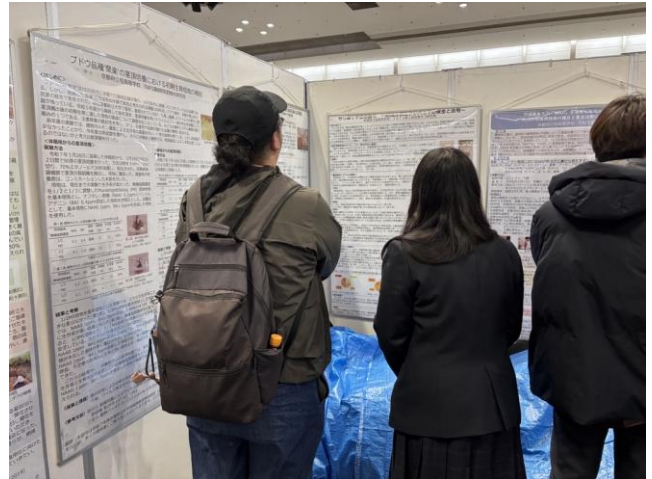
イベント参加③ 京都環境フェスティバル2026

2026年2月11日、京都パルスプラザにて開催された「京都環境フェスティバル」に参加し、キクタニギクを使用した栞作り体験や、ポスター発表を行った(第4.5図)。

体験した方が楽しく、分かりやすくキクタニギクに興味をもっていただくため、栞のデザインの種類を増やすなど、工夫を行った。



第4図
栞作り体験の様子

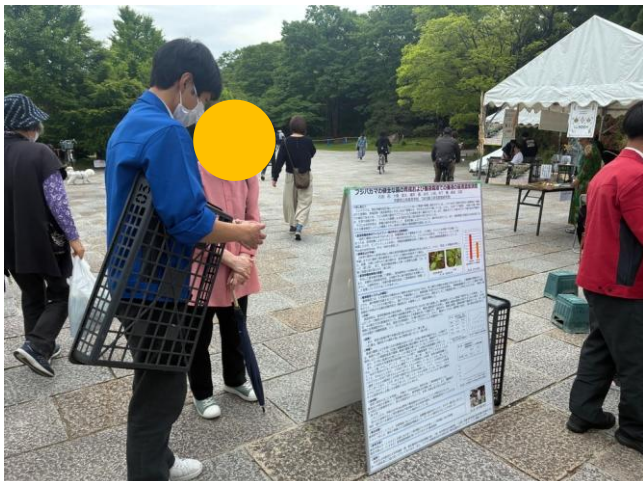


第5図
ポスター発表を行っている様子

イベント参加④ 梅小路公園グリーンフェア2026年春

2026年5月3日、梅小路公園春のグリーンフェアに参加し、私たちの研究活動をまとめたポスター発表を行い、多くの人に私たちの活動や、準絶滅危惧であるキクタニギクの存在を周知することができた(第6図)。

また、多くの方にキクタニギクの順化体験をしていただいた(第7図)。順化したキクタニギクは、お持ち帰りいただいた。そのため、キクタニギクの周知に加え、保全もすることができた。



第6図
ポスター発表を行っている様子



第7図
順化体験の様子

イベント参加⑤ ル・マルシェ

2026年7月12日、関西日仏会館で開かれたル・マルシェ（パリ祭）でキクタニギクをエディブルフラワーとして利用したパウンドケーキの販売を行った（第8.9図）。

食べていただいた方に評価していただくため、アンケートを呼び掛けた。製作したパウンドケーキをすべて販売することができ、日本の方のみでなく、外国の方にも周知することができる機会となった。



第8図
販売したパウンドケーキ



第9図
販売の様子

周知活動一発表

発表① 向日市立西ノ岡中学校での発表

2025年6月12日、西ノ岡中学校を訪問し、総合の時間にSDGsについて学習している生徒に向けて、研究発表を行った(第1図)。

準絶滅危惧であるキクタニギクのプロジェクト発表を行い、準絶滅危惧を保全し利用することで様々なSDGsに貢献できることを西ノ岡中学校の生徒に知ってもらうことができた。



第1図 西ノ岡中学校での出前授業の様子

発表② ZET-BASE KYOTO夏まつり

2025年8月25日、京都府主催のオープンイベントZET-BASE KYOTO 夏まつりに参加し、ポスター発表(第2図)、キクタニギクを使用したネイルの販売、また知事との懇談を行った。

来ていただいた多くの方々に実際に商品を手にとっていただくことでキクタニギクを周知することができ、さらなる知名度の向上を行えた。



第2図 ポスター発表を行っている様子

発表③ きょうと☆いきものフェス!2025

2025年9月27日、京都府立植物園にて口頭発表、キクタニギクを使用したネイルの販売、キクタニギクの栞作り体験を行った(第3.4図)。

また、私たちがGREEN×EXPO2027でガーデン制作をすることが決定したことで、私たちの活動についての発表も行った。

これらを通してキクタニギクを知っていただくことで、幅広い年代の方に準絶滅危惧を広めることができた。



第3図
口頭発表を行っている様子



第4図
栞作り体験の様子

発表④ 精華キャンパス研究交流会

2025年12月19日、京都府立大学にて、「精華キャンパス研究交流会」に参加し、企業や大学の方々に研究発表を行った(第5図)。

準絶滅危惧であるキクタニギクについて発表を行い、多くの企業や大学の方にキクタニギクや私たちの活動を知ってもらうことができた。



第5図 研究発表を行っている様子

発表⑤ 京都アグリ・フードイノベーション創出事業 令和7年度成果報告会

2026年3月26日にキャンパスプラザ京都で令和7年度の成果をまとめ、発表を行った(第6図)。

発表ではキクタニギクの概要、主な研究内容について説明し、他の参加者の方と意見交流をし、新たな考えを持つことができた。



第6図 発表を行っている様子

発表⑥ 京都大学での発表

2026年8月6日に京都大学の近藤友大先生を訪問し、在来作物の研究に関してご教授いただいた。また、フジバカマやキクタニギクのポスター発表を行い、近藤先生や大学生の方からの質問に答えたり意見を交流した(第7図)。

在来作物を守ることの重要性や保全に関する理解を深めることができた。



第7図 発表を行っている様子



実績



実績

令和7年度 第9回全国高校生農業アクション大賞

2025年6月23日、全国農業協同組合中央会、毎日新聞社が主催する全国高校生アクション大賞に応募し、私たちが行っているキクタニギクの3年間の活動計画を提出した。

活動計画は、現在の活動状況などを踏まえ、目指す先を明確にイメージしながら作成した。その結果、認定15グループに選出された(第1図)。



第1図 認定15グループのパンフレット

第11回 全国ユース環境活動発表大会

2025年12月21日に開催された環境省が主催する全国ユース環境活動発表大会に参加し、キクタニギクにおける生物多様性の保全、地域文化の継承について発表した(第2図)。

また、この発表が評価され、近畿地方大会で優秀賞をいただくことができた。



第2図 発表の様子

第2回みどり戦略学生チャレンジ

2026年2月27日、農林水産省が開催するみどり戦略学生チャレンジに参加し、キクタニギクの農業生産物としての価値を高めるため効率的かつ衛生的な生産方法について発表を行った。

また、この内容が評価され優秀チャレンジ賞をいただくことができた(第3図)。近畿農政局の方とも意見交流を行い新たな視点を持つことができた。

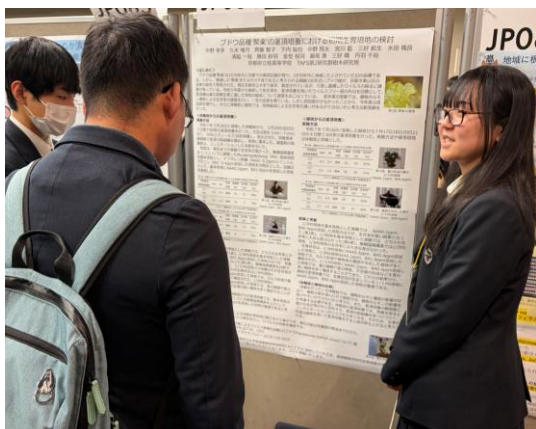


第3図 受賞の様子

日本農芸化学会

2026年3月12日、公益社団法人日本農芸化学会が主催する日本農芸化学会の大会に参加し、キクタニギクの研究内容のポスター発表を行った(第4図)。来場された多くの方々にキクタニギクの研究活動を知っていただき、知名度向上につながったと考える。

また、他校の生徒、審査員の方々とも意見交流を行い、他の実験方法や周知方法を模索するきっかけになった。



第4図 宣伝活動・ポスター発表の様子

第77回京都府学校農業クラブ連盟大会

2026年7月22日に開催された第77回京都府学校農業クラブ連盟大会に出場した。本番に向け、長い期間をかけ、様々な準備を行い挑んだ。本番では練習の成果を発揮することができ、「最優秀賞」をいただいた(第5図)。

また、他校の発表を聞くことで発表の仕方やスライドの構成など良い刺激を受けた。授賞式では、審査講評の時間が設けられ、地域と連携した活動の評価や事前資料の改善点など貴重な意見をいただいた。



第5図 表彰の様子

第74回近畿学校農業クラブ連盟大会

2026年8月20日に開催された第74回近畿学校農業クラブ連盟大会に出場した。前回の京都府大会をもとに、さらに練習を積み重ね、本番に挑んだ。本番では練習の成果を発揮することができ、「最優秀賞」をいただいた(第6図)。

発表終了後の質疑応答では、日々の学習や研究で得た知識をまとめ答えることができた。また他校の発表を聞き、新しい視点から研究を見直すことができた。



第6図 表彰の様子

メディア

自生地への植え付け

重陽の節句に、自生地である高台寺岡林院を流れる菊谷川へ植栽を行った。私たちが開花調整し、開花させた株を使用した。本来開花しない時期である2025年9月9日に開花をさせ、注目を集めたことで周知する機会になった。

読売新聞

重陽の節句 和やか 菊植栽 保全願う 高台寺塔頭



東山区の高台寺塔頭、岡林院では、和花の保全などに取り組み市民団体「都の福菊」と府立桂高の生徒らが、境内周辺で咲いていたというキクタニギクを植えた。

キクタニギクはかつて東山区の菊溪に自生し、約50年前には高台寺の境内でもみられたという。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に登録される。

都の福菊は昨年、農業を学ぶ府立桂高の研究チームと連携。広く知ってもらおうと、近年開花が遅れていたキクタニギクを重陽の節句の9日に合わせて見頃を迎えさせることに成功した。

この日は、府立桂高の生徒と都の福菊代表の越後幸恵さんが、参道脇に花をつけた苗を含む計5本を植栽。越後さんは「数年後、参拝者にキクタニギクの甘い香りを楽しんでもらいたい」と話していた。

キクタニギクを植栽する府立桂高の生徒ら（東山区で）

産経新聞

キクタニギクの植栽を行う桂高の生徒や関係者ら—東山区（渡辺大樹撮影）



よみがえれ キクタニギク 岡林院で高校生ら植栽

高台寺の塔頭、岡林院（東山区）の参道脇にある菊谷川のほとりで、環境省の準絶滅危惧種に指定されている「キクタニギク」（菊溪菊）が保全プロジェクトの一環として植栽された。周辺では数十年前までキクタニギクが自生していたとされるが、近年は都市開発や温暖化の影響でその姿が見られなくなっていた。府立桂高校（西京区）の生徒が研究を続けて生育し、満開の花が参道脇を彩った。

今回植栽されたのは5株の苗。来年5月の本格的な植栽に向け、土壌との相性などを調査する。

キクタニギクの保全活動を行う任意団体「都の福菊」が主導。代表の越後幸恵さんは「自然な姿で本来の生息地で元気に育つキクタニギクを見たかった」。西京区で

自生しているキクタニギクを保護し、保全プロジェクトを進めているという。

本来11月ごろが見頃とされるキクタニギクを、「菊の節句」（9月9日）に合わせて満開にさせたのは桂高校で農業について学ぶ生徒たちだ。昨年6月ごろからキクに関する研究を開始。人工的に気象条件を操作できる機器を使い、日照量を管理する手法で生育を調整し、満開のキクを提供した。3年の演習一校さん（18）は「多くの方の協力があって実現した。キクタニギクの保全にも使命感を感じている。知名度の向上にも貢献していきたい」と話していた。

岡林院の青山公胤住職は「将来的には庭園内でも育てたい」と語った。（小野田銀河）

朝日新聞

京都

また咲き誇れ キクタニギク

「菊の節句」とも呼ばれる璧協の節句の9日、高台寺塔頭の岡林院（東山区）で、京都にゆかりのあるキクタニギクが植えられた。希少な植物に光をあてようと頑張る任意団体が、活動の一環として企画した。

東山にはかつて菊の名所（菊溪）が知られていたという。キクタニギクの名前の由来になっているとされる。岡林院は將軍塚付近から流れ出た菊谷川の流域に位置する。今回の植栽は、キクタニギクの保全や栽培などに努める「都の福菊」（越後幸恵代表）が重陽の節句に合わせ、「蘇る菊溪菊」と題して実施した。

キクタニギクの復興に向けて団体と協力関係にあり、育成に取り組む桂高の生徒らも参加して、参道の脇に植栽した。

越後さんは「京都から菊の文化を発信したい」。岡林院は普段は非公開

名所復活へ 東山・岡林院で植栽



のお寺。青山公胤住職によると、将来的には開花時期に合わせて限定公開も検討したいという。（清水謙司）

デジタル版ニュースはこちら

京都総局 千504-8101
中京区御池通福康橋会 TEL 075(211)3351
FAX 075(211)8339
kyoto@asahi.com
岡崎支局 0773(76)5555
播磨支局 0773(22)2521

購読・配達のご用は 0120-33-8841（7～21時）
広告のご用は 京都 075(585)2501
折り返しのご用は 075(602)8451

自生地での挿し芽指導

自生地である高台寺岡林院にて、挿し芽指導を行った。挿し芽指導を行ったことで、地元の方がキクタニギクを管理できる機会になったと感じている。

また、開花調整を行い開花株を持参したことで、さらに注目を集めた。

読売新聞

京都新聞



産経新聞

絶滅危ぶまれるキクタニギク 京都の寺院で順調に生育 協力する桂高校は横浜花博に出展へ

2026/6/3 16:53



挿し芽でキクタニギクの株を増やす作業を行う桂高校の生徒と住職ら＝京都市東山区の岡林院の参道

KBS京都



「キクタニギク」挿し芽技術で保全へ

挿し芽

とふくぎく

都の福菊

桂高校の生徒らが挿し芽の方法を伝えた